

研修員に聞くーお国自慢あれこれ



イヴァイロ・ザフィロフさん
(ブルガリア共和国)

Mr. Ivaylo Zafirov

ブルガリア環境水質省国家自然保護事業局、環境保護地域専門官。JICA北海道国際センター(札幌)「東欧環境行政」コース(2002年10月15日～11月17日)で研修。



北海道に似ている？

続きなどを担当している。「鳥や動物などが好きなので外での仕事をしたいのですが、今はデスクワークが主体です」といいながら、国の自然保護政策に使命感を抱いている様子であった。



くれた。

民主化以降、 環境問題に取り組む

ブルガリアは面積11万1千平方キロメートルと小さな国だが、ドナウ川が黒海に注ぐ辺りの湿地帯はシベリアとアフリカを行き来する渡り鳥の中継地点で、鳥類だけでも400種類が見られるほか、森林も広く数多くの動植物が生息している。

イボさんは、「非合法的な廃棄物処理、水質汚濁、森林破壊が未解決で、



お祭りに民族衣装で

生物多様性の保全に問題があります」と率直に明快に話を切り出した。

1991年に新憲法が採択されて以降のいわゆる「民主化」の中で、ブルガリアは欧州各国の技術協力による廃棄物処理、森林伐採や森林火災に関する啓蒙、環境保護地区ネットワークの設定、生物の多様性保全、絶滅危惧種の種の保護、密猟・密貿易の禁止などに力をいれてきた。しかし、これらの問題に取り組むうえで資金不足、不完全な取り締まりや処罰、国民一般の認識不足などがネックになっているという。

イボさんが所属する国家自然保護事業局は1998年に施行された環境保護区法に基づいて、国土の5割にあたる環境保護区の拡大、変更などに関わる手

2007年のEU加盟を目指して

12年前まではいわゆる「東欧諸国」のひとつであった。民族は遠くアジア系の祖先をもち、キリル文字を使うなど中央ヨーロッパとはひと味違う文化を持つ。国の中央を東西にバルカン山脈が横切る山国で森林面積も広く、美しく豊かな自然環境に恵まれている。

数年後のEU加盟を控えてヨーロッパ大陸に連なる生態系ネットワークを確立しようということで、例えば、「欧州自然ネットワーク2000」(別名エメラルド・ネットワーク)をはじめ、生物の多様性、移動性野生動物の種の保全、絶滅危惧種の輸出入の問題などに関する国際条約、協定を次々に批准して国内の法律を整備している。

豊かな自然ばかりでなく、ユネスコの世界文化遺産に登録されている史跡なども多く観光客も多い。古くは、バラの香りのエッセンスの産地として有名であったが、「おばあちゃんの時代には、ね」と、近年はあまり経済効果はないらしい。

(写真提供 http://www.travel-bulgaria.com/index_.shtml)

ブルガリアの環境保護専門官

イボさん(イヴァイロさんの愛称)と犬種保存の話で盛り上がったという方の紹介でインタビューすることになった。会っての印象は「華奢で清潔そうな青年」で、犬の種類に喩えればシルバーグレイの長毛をなびかせて歩く、あの優雅なアフガンハウンドといったところか。しかし、いくら犬好きとはいっても犬の話ばかりというわけにもいかず、ブルガリアの現状などをまじめにお聞きした。両手のしなやかな指を組んで、静かに、ブルガリアの自然保護がどのように進められているかを語った



急峻の谷間